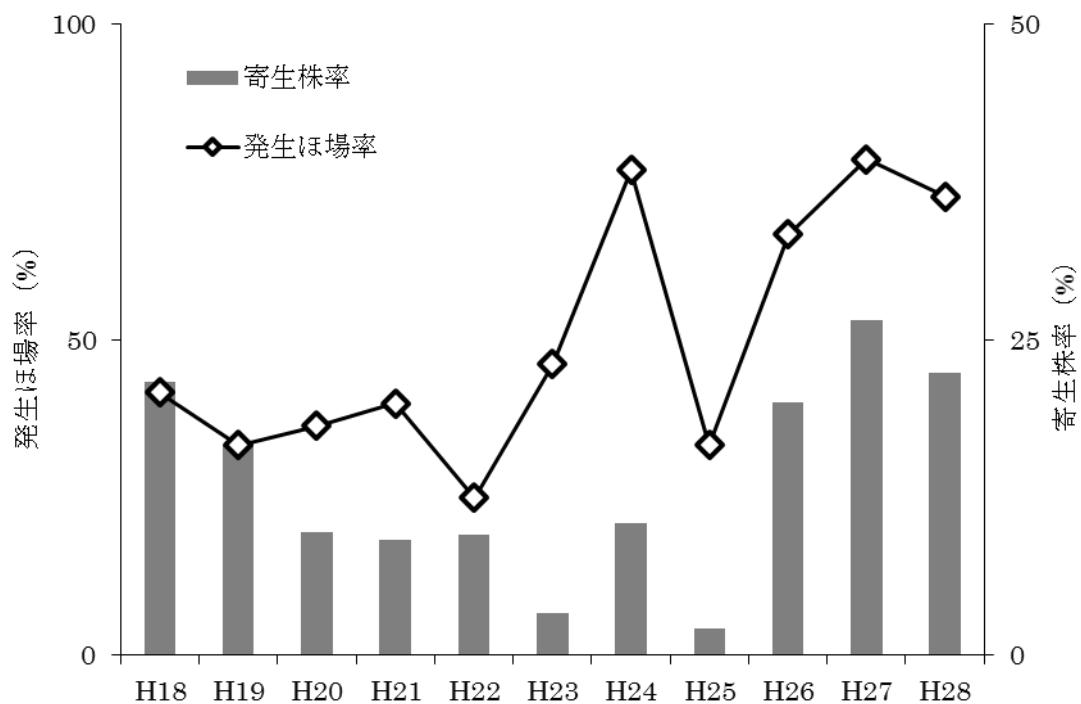


## 平成27年度病害虫発生予察注意報第2号

病害虫名 ハダニ類（ナミハダニ・カンザワハダニ）  
作物名 イチゴ

1. 発生地域 県内全域
2. 発生時期 収穫期（3月以降）
3. 発生程度 多い
4. 注意報発表の根拠
  - (1) 平成28年2月下旬の巡回調査における発生ほ場率は72.7%（平年47.8%）、平均寄生株率は22.4%（平年13.0%）で平年より高くなっています（図）。
  - (2) 近畿地方の1か月予報（大阪管区気象台2月25日発表）によると、気温は平年より高い予想であり、ハダニ類の発生に適した気候条件が続くと考えられます。
  - (3) ハダニ類は、これからの気温の上昇に伴い急激に増加します。多発すると株の生育が阻害されるため、未発生ほ場も含め注意が必要です。
5. 防除上の注意事項
  - (1) 薬剤防除の際は、事前に古葉かきを行い、葉裏に薬液が付着するよう十分な液量を丁寧に散布します。
  - (2) 取り除いた古葉をほ場内に放置すると、そこからハダニ類が他の株に移動するため、必ず施設外に持ち出し、肥料袋に入れるか、焼却するなど適切に処分します。
  - (3) 各種殺ダニ剤について防除効果の低下が認められる個体群が増えています。効果に疑問がある場合は、各農林振興事務所、病害虫防除所または農業水産振興課技術支援係へ相談します。
  - (4) 気門封鎖剤などの物理的防除資材を積極的に活用します。気門封鎖剤はハダニ類に直接、十分量付着しないと効果がないため、丁寧に散布します。また卵への効果がなく、残効性が期待出来ないため、5～7日間隔で複数回散布します。また薬害の発生を避けるため、高温時や薬液が乾きにくい夕方の散布は控えます。
  - (5) 薬剤の選定にあたってはミツバチ等訪花昆虫への影響を十分考慮します。



図：ハダニ類の発生ほ場率および寄生株率の年次比較（2月調査）

表 ハダニ類の主な防除薬剤（イチゴ）

薬剤名	IRAC コード	希釈倍数	使用時期	使用回数
アファーム乳剤	6	2000 倍	収穫前日まで	2回以内
コロマイト水和剤	6	2000 倍	収穫前日まで	2回以内
スターマイトフロアブル	25A	2000 倍	収穫前日まで	2回以内
ダニサラバフロアブル	25A	1000 倍	収穫前日まで	2回以内
ダブルフェースフロアブル	25B,21A	2000 倍	収穫前日まで	1 回
マイトコーネフロアブル	UN	1000 倍	収穫前日まで	2回以内

※平成 28 年 2 月 17 日現在の登録状況です。